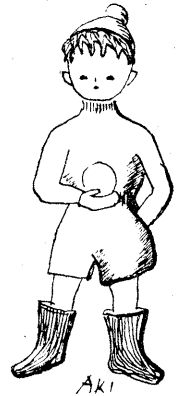


# ◇ 幼児の知能の研究 ◇

## 就学と知能

(上)



村山 貞雄

### 1 就園と知能

「はえばたて、立てばあゆめの親ごころ」といわれるが、このような愛情にはぐくまれて育った幼児が、幼児期を無事に終って巣立ってゆくのは就学ということによってである。

しかし、ある子どもはそれ以前に就園ということによって仮巣立ちをおこなう。

就園と知能の関係を調査した結果、大体つぎのことがみられた。

(1)現在の幼稚園教育で、三年保育児として保育されるためには、四月の入園時に約三歳六か月以上の知能年齢をもっていることが望ましい。

(2)三年保育児として保育されるためには、知能の発達が約三歳六か月以上でさえあればよく、その他は知能よりも、むしろ社会性、基礎的習慣、特に自立の習慣、情緒、行動の速さなどが大きく影響している。

(3)もし、幼稚園保育のやり方を変えれば、たとえば保育所のような保育方法をとれば、知能程度は問題でなくなる。

(4)二年保育と一年保育では、知能指数が約六十五以上の子どもであれば、パーソナリテ―や行動に大きな欠陥がないかぎり、保育が可能である。

三年保育児で、保育上特に困る幼児について調査した結果は、第一表のようになり、知能指数の平均は一一七・〇(標準偏差値三八・〇〇)であった。ただし、この調査は六月乃至九月に調査して知能年齢をだし、知能指数から、四月現在の知能年齢を推定したものである。

また、若葉会幼稚園の三年保育児について保育が困難な者と全体の幼児の関係をしらべたところ、保育が困難な幼児は、知能指数(村山式幼児用団体知能検査)が非常にひくい者と非常に高い者であった。(第二表参照、○印のある者が保育困難児)

実際には、三年保育児は、幼児自身も幼稚園へ行きたいといって入園し、両親も非常に慎重に考えて入れるためか、多くの幼稚園で「一年保育児や二年保育児には、保育の困難

第二表 保育困難児と  
知能指数

番号	生活年齢	知能指数
①	3: 6	206
2	3: 10	123
3	3: 4	123
4	3: 5	116
5	3: 7	108
6	3: 6	102
7	3: 10	101
8	3: 3	100
9	3: 7	90
⑩	3: 0	81-
⑪	3: 0	81-
12	3: 1	80-
13	3: 3	78
14	3: 6	73

な者がいるが、三年保育児にはほとんどいない」という回答をえた。(第三表参照)  
なお、大学の附属幼稚園のように特殊な幼稚園への就園は、試験の合格の可能性にかんする考慮は別とし

わが国では、江戸時代の末期には、都市ではかぞえ年六歳や五歳で寺入りする子どもが多かったが、明治になって就学年齢満六歳に達した後の最初の四月とされ、現在におよんでいる。  
この結果、おなじ年にうまれた子どもでも

第一表 特に保育が困難な幼児

性	生活年齢	知能年齢	知能指数	保育上特に困る点	知能テスト名
男	3: 3	2: 6	78	・一つのことを気に入らずとその他ばかり考えて他のことに手がつかない ・喜怒哀楽の情がはげしすぎる	村山式幼児用団体検査
男	3: 3	2: 8	81-	・こちらの言うことがわかるのかわからないのか全く反応をみせない ・フラフラとどこへでも出かける	同上
女	3: 0	2: 8	81-	・こちらの言うことがよく理解出来ない ・どこへでもフラフラ出かける ・本人が全く気づかずによくおもらしている	同上
女	3: 6	7: 3	206	・つねに自分が中心になっていないと気がすまない ・自分の気に入らないことがあると物をなげたりしておこる	同上
女	2: 7	3: 3	126	・泣きだしたらどんな方法をこうじても泣きやまない ・なかなか友達になじまない	鈴木ビネー式
女	2: 11	3: 3	112	・集団生活になれにくく消極的である ・表情の変化や意志表示がはっきりしない	乳幼児精査 発達検査
男	3: 5	3: 7	104	・室内での静かな遊びに集注できずあき易い	同上
男	2: 11	3: 3	112	・集団意識がなく、いつも勝手にふるまう	同上
女	3: 7	4: 4	120	・集団にたいして恐怖心をもつ	同上
男	4: 0	3: 6	87	・健康状態がよくない ・全く傍観的な態度をいつまでもつづける	同上
女	2: 11	3: 4	114	・自分がしたくないことや納得のいかないことは、がんとして行動に移さない	同上
男	2: 4	2: 11	123	・友達との話し合いはよくするが、教師との話し合いになると口が重い	同上
女	3: 5	4: 3	125	・気が強く翻覆をおこし易い	同上
男	3: 3	3: 5	104	・発音不明瞭のために本人の意志が通じぬことが多い	同上
女	3: 0	3: 2	105	同上	同上
男	3: 0	4: 2	140	・集団に入るとすぐ強がる	同上
女	3: 0	3: 9	125	・子供らしい遊びや友達との接触に興味をもたない	同上
女	2: 10	3: 3	114	・非常におちつきがない	同上
男	2: 9	3: 3	118	・自分でしようと思っていることにたいしちよっとでも手を出したりすると、大声でわめく、または相手を打つ	同上
男	3: 3	4: 6	138	・大人っぽく理論的に物を考えるきらいがあってやや明さを欠く	同上
女	3: 4	3: 1	118	・無表情、すなおさに欠く	同上
男	2: 10	3: 11	138	・友達を本人にたいして間違ったことをしたばあい言葉でいうことが出来ず無抵抗でシクシク泣きだし、長泣きをする	同上

でも、知能指数が約百十以下では、入学後無理であることがほとんどである。  
2 就学と知能  
就学の年齢は、イギリスのように満五歳としているところもあれば、満七歳としているところもあるが、ほとんどの国家は満六歳以後の九月または四月をもって就学の始期としている。

第三表 三年保育児の保育困難な程度

調査幼稚園	三年保育児数	保育が困難な子ども数
D 幼稚園	18人	0人
I 幼稚園	12人	1人
K 幼稚園	42人	18人
N 幼稚園	40人	0人
O 幼稚園	15人	0人
T 幼稚園	18人	2人
W 幼稚園	19人	5人

年に就学することになった。

実際には、この年齢より早く就学する子どもがいた。たとえば、兄に一年間ついて行ってそのまま二年に進学した人や満三歳台で入学したという老人がいる。これにたいして、医師会の要望などもあって、学齢未満の幼児を早く就学させすぎないようにとの注意が文部省から出されており（明治十七年二月十五日文部省達第三号）現在は就学期は厳守されている。

しかし、知能と身体の発達が特にすぐれた子ども（特に四月から八月頃にかけて生まれた子ども）をもつ親は、一年早く就学させた

四月一日以前にうまれた者と、は、ちがった

いと思う者も少なくないことは見逃すことのできない事実である。

適当な就学年齢についてしらべるために東京都内の幼稚園について調査したところ、平均五歳六か月頃から始めて幼児の性格を抜けたして、児童期的性格をおびてきている。このことから考えると、就学の期間をもう半年くり上げることの可能性が調査されてよいのでなからうかと思われる。

就学と知能の関係で特に問題になるのは、知能遅滞の子どもについてであり、自由募集校の入学も問題になる。これらについて、つぎにみよう。

第四表 特殊学校の受験と知能の大体のめやす

自由募集校の種類	受けないことが望ましい知能偏差値	受けないことが望ましい知能指数
東京都と三大都市の国立大学の附属小学校 将来学部まで進むことができる東京都の著名大学の附属小学校	約六十五以下	約百二十五以下
神戸横浜等大都市の国立大学の附属小学校	約六十以下	約百二十以下
六大都市の伝統のある私立小学校	約六十以下	約百十五以下
その他の国立大学附属小学校	約五十五以下	約百十以下
その他の伝統ある特殊小学校	約五十五以下	約百五以下

3 自由募集校への就学

公立の小学校はすべて、その学区内の学齢児童にたいして、特に異常のある者を除いて入学を許可しなければならぬ。しかし、私立の小学校や国立の小学校は、入学する児童を選択してもかまわない。このような学校を自由募集校と呼んでいる。

現在ほとんどすべての自由募集校は、比較的知能の高い子どもを入学させているが、教育的にはむしろ比較的知能の低い子どもを入学させて、念入りに教育をおこなうような自由募集校がたくさん出現することが望まれ

第五表 昭和25年度特殊小学校入学者の知能指数

		N	被調査者	$\pi$	$\sigma$	最大	最小
都内国立大学附属	A小学校	11	15	129.54	13.71	147	109
	// B小学校	11	38	128.72	12.72	150	115
	// C小学校	26	80	126.53	12.64	159	101
都内私立大学附属	K小学校	26	95	125.34	11.22	149	107
	// L小学校	23	25	123.52	7.54	137	108
	// M小学校	22	42	111.50	5.74	127	94

(調査者 村山貞雄 松村和子 上妻美鈴)  
検査は鈴木ビネー式

第六表 昭和27年度特殊小学校入学者の知能指数

		N	被調査者	$\pi$	$\sigma$	最大	最小
都内国立大学附属	A小学校	19	57	129.79	12.49	164	112
	// D小学校	4	20	122.75	14.56	142	101
	// B小学校	16	77	121.00	10.95	140	96
	// C小学校	24	131	117.88	10.15	138	100
都内私立大学附属	K小学校	33	143	127.27	14.00	167	100
	// N小学校	6	17	120.33	8.66	128	103
	// O小弱校	22	42	119.36	11.45	143	94
	// L小学校	23	37	119.22	9.11	136	105
	// K小学校	25	55	115.40	9.54	138	100

(調査者 松村和子 検査は鈴木ビネー式)

に入学した子どもの知能指数をしらべたところ、第五表と第六表のようになり、大体知能指数の平均が百二十五であり、国立のほうが私立よりもやや高かった。

る。特に境界線級 (Borderline class) から約九十までの児童を入れる学校のできることを望ましい。

東京都内で知能の高い子どもが入学する自由募集校では、昭和二十八年ごろには教養相談に来る母親たちのあいだに、「慶応の幼稚舎は指数が百三十以上ないと入れない」という風説がひろがっていた。昭和三十年には「指数が百五十以上でないためだ」というよう

なことをいう母親にしばしばであったが、これは幼稚園の先生が知能指数の意味を理解しないでいう無責任な言葉によるが多かった。

筆者の調査をもとに自由募集校と知能の大体の基準をつくと第四表のようである。

なお、愛育研究所に就学の相談に来た幼児について、東京都内の自由募集校のうち入学の困難とされるもの数校をえらんで、これに

最近、知能検査の練習をして来る者が多くなったので、正確な数値はあらわれにくくなっているが、この表よりも平均が高くなっていると推測される。

#### 4 知能遅滞と就学猶予

知能が非常におくれている子どもを、小学校の普通の学級編成のなかに入れて教育することは、①教育効果がほとんどあがらないだけでなく、②本人の幸福を阻害することが多い。また、③これらの児童の或る者は他の児童や教師の邪魔になるおそれがある。

そこで、知能遅滞児の就学を猶予したり免除したりすることができるよう制度がなされている。

就学猶予にかんする法令の条文以後は次号に於てくわしく述べることにしよう。